

【国語】

論理的な文章、文学的な文章、平易な古文の三題を出題して、入学後の国語の学習に必要な学力が備わっているかどうかを確認します。論理的な文章と文学的な文章の本文は、一定のボリュームを備えたものを選んでいきます。文章を正確に把握する力や、登場人物の心情を丁寧に読み解いていく力などを、記述式と選択式の設問において多角的に問うようにしています。漢字の書き取りなど、国語の基礎である語彙力を問う設問もあります。古文の出題は、言葉や内容の理解などについて試します。普段から古文に慣れ親しんでいることが大切です。全体として、日々の読書の質と量を問うことを出題の方針としています。

【数学】

①は小問4～5題で因数分解、式の計算、1次方程式、図形、整数問題などが出題され、答だけの採点となる。配点は30点くらい。

②～⑥は大問で、2次関数、場合の数、確率、連立方程式、二次方程式、図形などが出題され、途中の式の変形も必要となる。配点は1題につき12～17点くらい。式を正しく使って、説明する姿勢を養ってほしい。また、答案は答をだすために書くのではなく、採点者に自分の考えを伝えるために書くのだという認識をもつこと。

【英語】

Ⅰ リスニング：1～6問、選択肢から選ぶ問題。読まれる短い英文と同じ内容もしくはその答えになる短文や、その英文を導く質問となる短文を選ぶ。7～10は比較的長い2つの英文に関する設問に英語で答える。英文はすべて2回読まれる。

Ⅱ 長文読解：入試問題の中心で、配点も最も高い。わからない語があっても全体の話の流れや要点をつかみ、それらを踏まえて解答できるかを問う総合問題。

Ⅲ 会話文による読解：会話文を通してⅡと同じ趣旨で出題。

Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ 中学で習う語彙・表現、語法、文法事項あるいは発音の確認。

Ⅶ 出題形式は不定だが、自由作文・条件作文・下線部訳などを通して、表現力・考える力を問う。

◎既習事項の理解の確認とともに、それを基にした未知なるものを読み取る力、表現する力、論理的に考える力があるかどうかを問うことを出題の目的としている。

【理科】

【出題範囲】 中学1年から3年の教科書の全範囲を中心として出題する。無理のない程度で、教科書の範囲以外のものが入ることもある。

【出題方針】 教科書に取り上げられている実験や観察を中心に、基本的な内容およびその応用を問う。また、読書などを通じて、さまざまな物質について定性・定量の両面から理解を深めたり、あるいは時事サイエンストピックスや身のまわりで見られるさまざまな理科学的現象について、普段から興味をもっておいてほしい。

【社会】

歴史的分野では、各時代の特色を総合的にとらえ、前後の時代との違いをよく理解しておいてほしい。また、世界の中の日本という観点も忘れず、外国との関係にも注意しておいてほしい。

地理的分野では自然環境と人間の生活との相互の関係や、主要な国々と日本との関係などに着目しながら学習してほしい。また、わが国の各地方における風土や産業の特色なども整理しておいてほしい。

公民的分野は文章の読解力も含めて、世界や社会への関心や理解力を試す出題をめざしている。単なる断片的知識ではなく、全体の関連の中で正確な知識が身に付くよう学習してほしい。新聞やテレビの報道にも気をくばり、最近問題になっていることにも注意しておくこと。

解答にあたっては、漢字指定のものはもちろん、それ以外でも教科書に漢字ででてくるものは漢字で答えられるようにしておいてほしい。